

# 漁海況月報

令和6年7月1日

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

## 1 海況

### ○ 黒潮流路

6月27日の人工衛星画像によると、黒潮は大王崎沖北緯31度付近から御前崎沖北緯34度へ向かって北上するAs型流路となっている(図1)。

### ○ 渥美外海の状況

渥美外海の海面水温は、黒潮が御前崎に接近した影響で、高温傾向となっている。黒潮系暖水は、御前崎沖北緯34度付近から西向きに波及しており、渥美外海の沿岸域まで及んでいる。

### ○ 予想

現在、流路変動に影響する黒潮流量の指標となるトカラ海峡(名瀬一西之表)の潮位差は高水準で推移している。一方で、潮岬沖の冷水渦は、依然大王崎沖北緯31度付近まで分布していることから今後も大蛇行流路が継続すると考えられる(図2)。

(参考: 潮位データを用いた黒潮モニタリング; <https://ovd.aori.u-tokyo.ac.jp/tides/time2.html>)

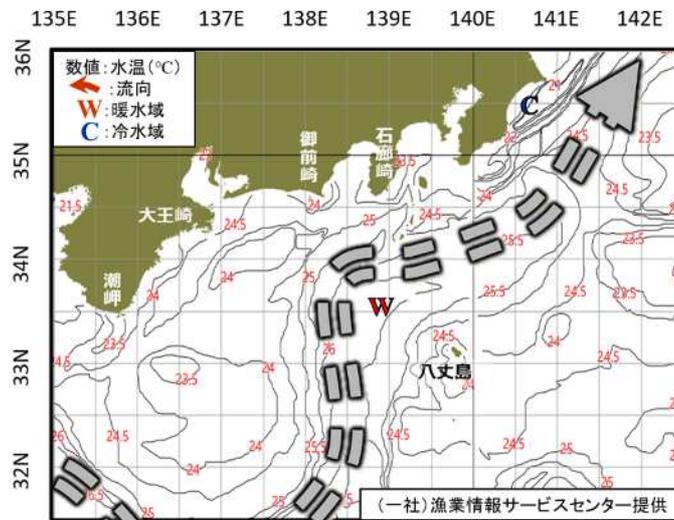


図1 海況の現況[2024年6月27日]

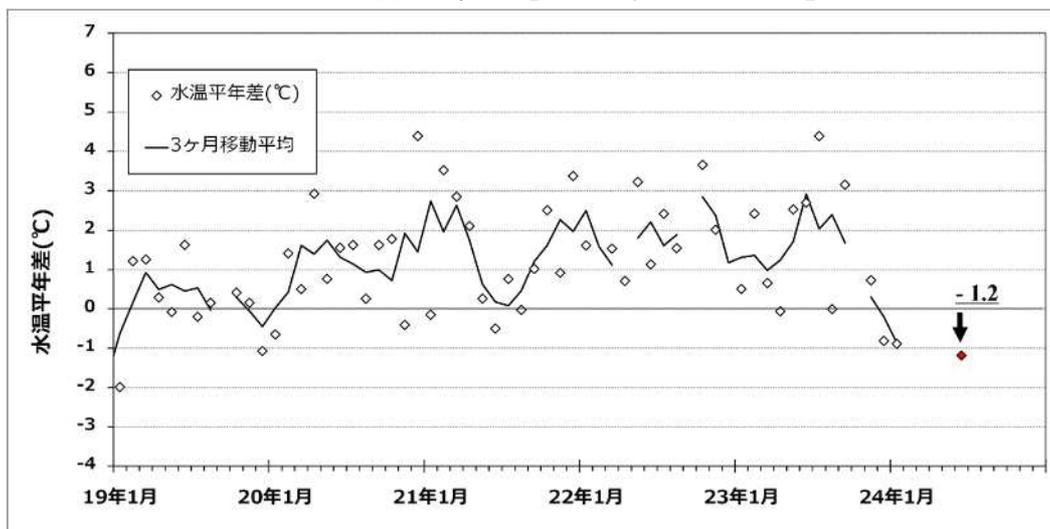


図2 沖合域の水温 (A4点、A12点、A19点の水深200mの平均)

## 2 イワシ類

### (1) シラス

5月31日、本研究所にしらす船びき網連合会とぱっち網漁業者が集まり、内湾禁漁の解禁協議を行った。そこで、内湾のシラスの資源状況把握のため、カイトネット調査(6月6日)を実施することが決まり、調査によって魚探の反応が小型のシラスであることが確認され、漁獲サイズになるまで禁漁を継続することとなった(月報特別号参照)。しかし、連合会役員が6月14日に内湾の様子を見に行ったが、シラスの反応はなくなっていた。このため、関係者が協議の上、6月24日に内湾解禁が決まった。

内湾が解禁となったが、内湾の漁場形成状況は悪く、外海主体の操業が続いている。

しらす連合会(10ヶ統以上)は、6月は8日間出漁し、1日1ヶ統あたりの平均漁獲量は、5~24カゴで推移している(図3)。種組成は、5月に見られたマシラスはほとんど混ざらず、カタクチシラス主体となっている。大きさは19mm未満の個体も確認できたが全体の量は少ない(図4)。

6月30日現在のシラスの月計漁獲量(206トン)は、前年同月(595トン)及び平年同月(過去10年平均711トン)を大きく下回った(表3)。

卵・稚仔調査では、卵は湾奥、湾中央部に多く、特に湾奥の調査点で非常に多くの卵が採集された(図5)。仔魚は三河湾では少なく、伊勢湾では湾全域で広く採集された。

外海では湾口付近と志摩半島沿岸で卵や仔魚が多く採集され、浜名湖の岸寄りや遠州灘沖合でやや採集され、遠州灘の岸寄りでは少なかった。

伊勢湾の卵採集数(4,120個)は昨年(3,256個)及び平年(1,506個)を上回り、仔魚採集数(952尾)は昨年(298尾)及び平年(614尾)を上回った。

6月の内湾の環境は不安定であり、降雨があれば内湾で発生した卵やシラスは外海へ流出する。6月6日にカイトネット調査で確認された小型のシラスの消失も、湾外への流出が考えられるが、当時の降雨量はそれほど多くなく、他の要因と思われる。伊勢湾中央の観測ブイの塩分やDO等の観測データをみると、底層に高塩分、低DOの海水が流入していた。外海水の流入が仔魚の逸散等に関与した可能性も考えられる。

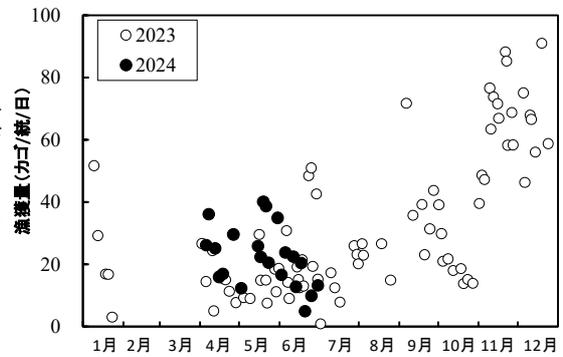


図3 シラス CPUE の推移

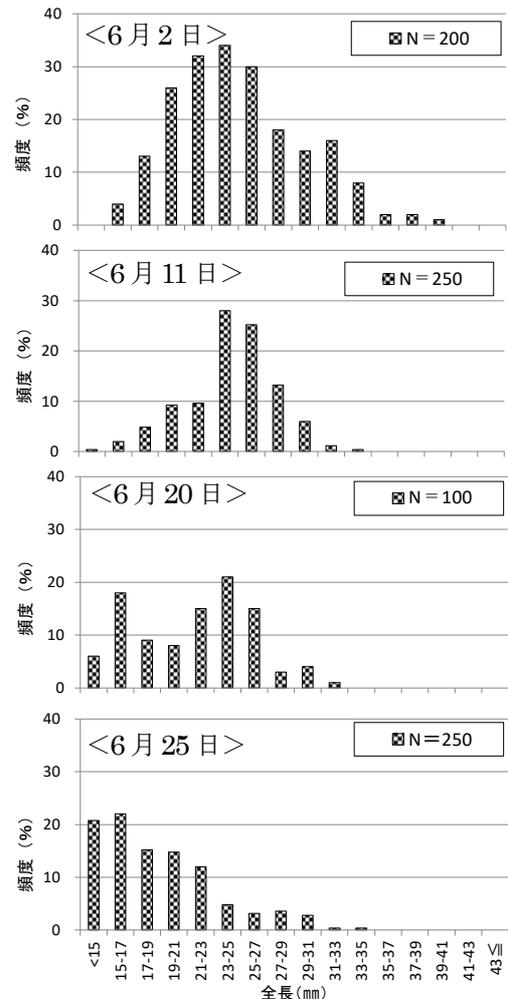


図4 シラス全長組成の推移

流出したシラスが遠州灘方向へ流され、弱い下り潮となればシラスが留まりやすくなり外海に漁場が形成される。一方、上り潮となれば志摩半島へ流される。今年の6月の調査結果では、外海に出た卵・仔魚は志摩半島側に流出していることから、上り潮による影響で、遠州灘沿岸に漁場が形成されにくい海況となったと考えられる。伊勢湾口（瀬木寄瀬）に設置されている国土交通省の観測ブイの上層の流向流速データを見ると、2024年6月1～27日の期間は、過去の同時期に比べても南向きの流れが強く、湾から流出した卵・稚仔は漁場とまらない南側（沖側）に流されたことが推察され、このことが遠州灘沿岸に漁場が形成しない要因の一つとして考えられた（図6）。

今後は、季節的に黒潮内側域からの遠州灘沿岸へのシラスの来遊には期待できないが、弱い下り潮によって、内湾から流出したシラスが遠州灘方向へ流出すれば外海での漁場形成に期待できる。

一方、内湾ではカタクチイワシ親魚による産卵が継続しており、適度な降雨によりシラスの餌料環境も良好である。今後生き残りが良ければ内湾でも漁場形成が期待できる。また、夏季の外海表層は栄養塩不足となりがちだが、黒潮が接近すると湧昇が起り、海底から栄養塩が補給され、シラスの餌料環境が好転し、生残が良くなることがあるので、今後の黒潮の流れ方にも注視していきたい。

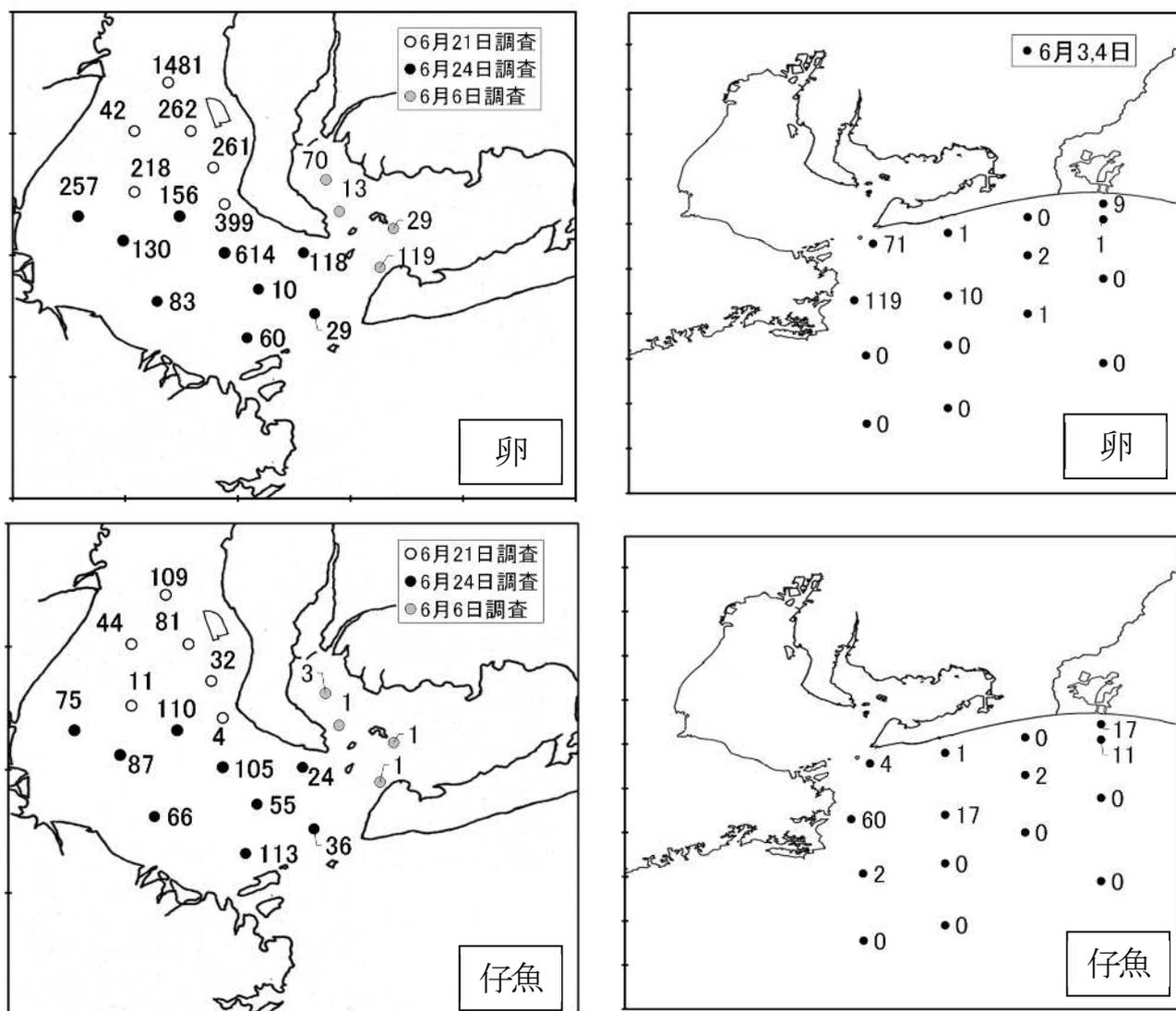


図5 カタクチイワシの卵・仔魚の採集状況  
(2024年6月3,4日(外海)、6月6,21,24日(内湾))

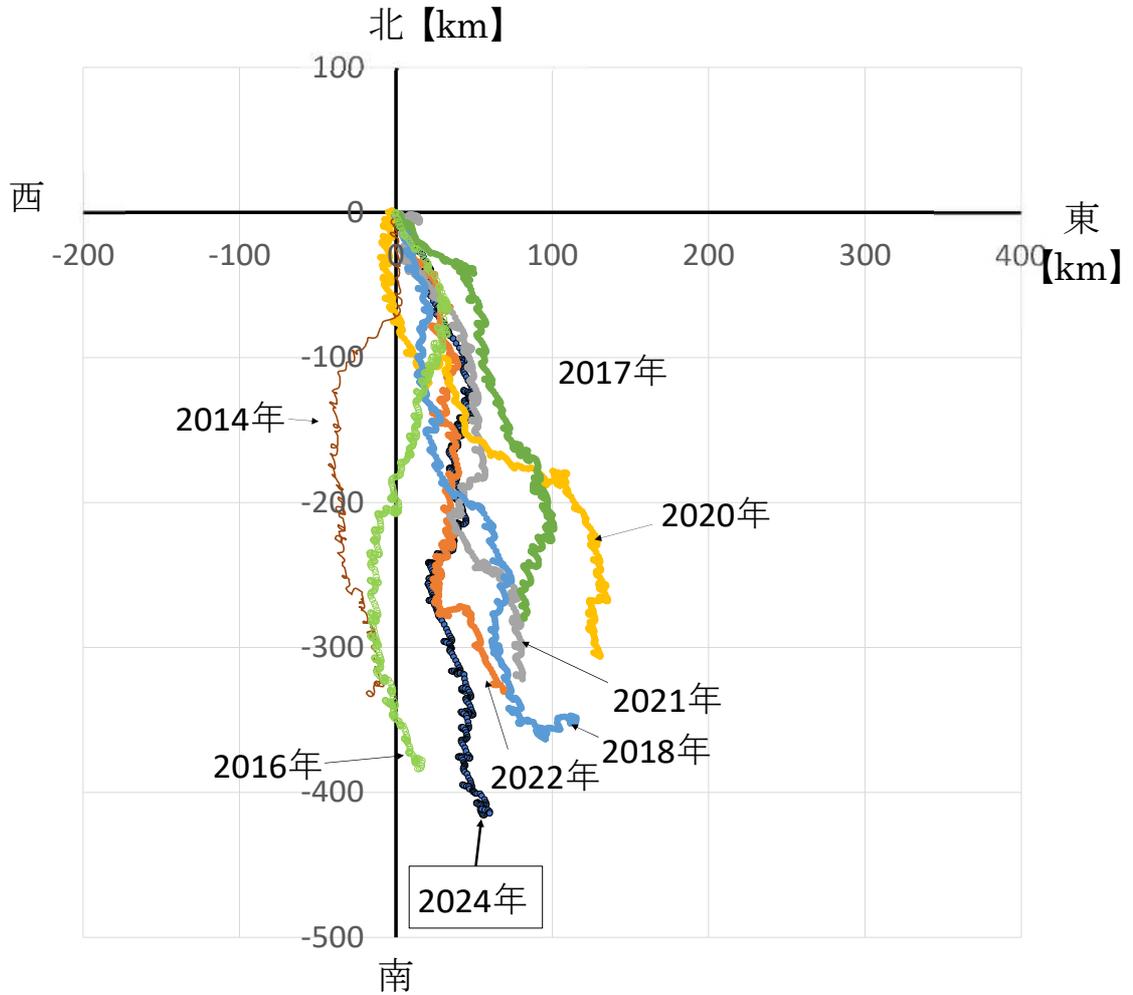
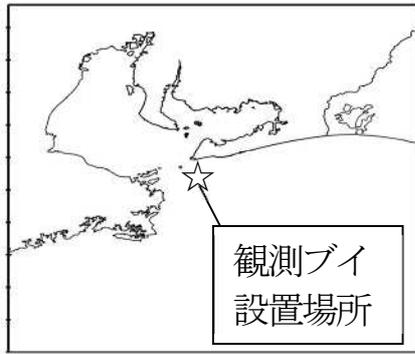


図6 水深3m層の進行ベクトル図（各年6月1日から648時間：27日間分）  
 （流向流速データは、国土交通省伊勢湾環境データベースより）  
 ※毎時観測される流向（°）をX軸、Y軸に分解し、観測時の流速(cm/sec)が1時間一定であると仮定して計算した。

## (2) マイワシ・カタクチイワシ (未成魚・成魚)

ぱっち網は、6月24日に初出漁し、初日は、空港島沖北部から内海沖が漁場となった。6月30日現在、3日出漁し、カタクチイワシの漁獲量(987トン)は昨年(13トン※)を上回り、平年(1,628トン)を下回った(表4)。※外海での試験びき。

1カ統あたりの平均漁獲量は、10~18トンで漁獲物の組成は、カタクチイワシ主体であった(図7)。被鱗体長9~11cmのマイワシもわずかに混獲された。

カタクチイワシの体長は全体的にまとまっており、9~10cmの個体が最も多かった。一方、9cm未満の個体の割合は水試が調査を実施した6月4日に比べて低下(24%→6%)しており、今後の漁獲対象となる群が少ない状況であった(図8)。

生殖腺熟度指数KGが5以上の個体の割合は低下(35%→12%)し、季節的に産卵水準は今後緩やかに低下していくと考えられる。

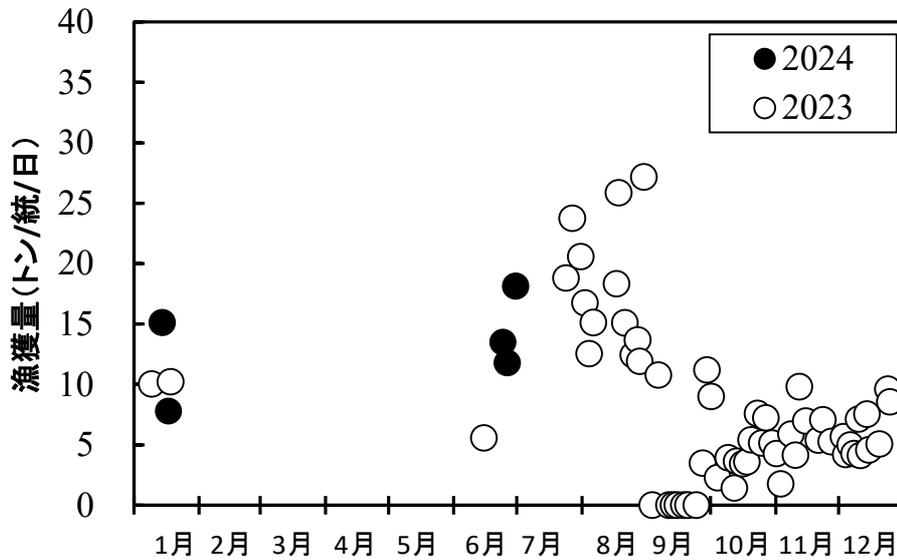


図7 カタクチイワシのCPUEの推移

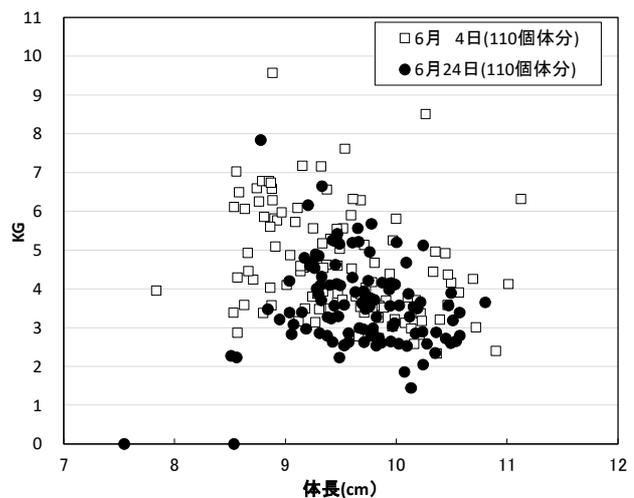
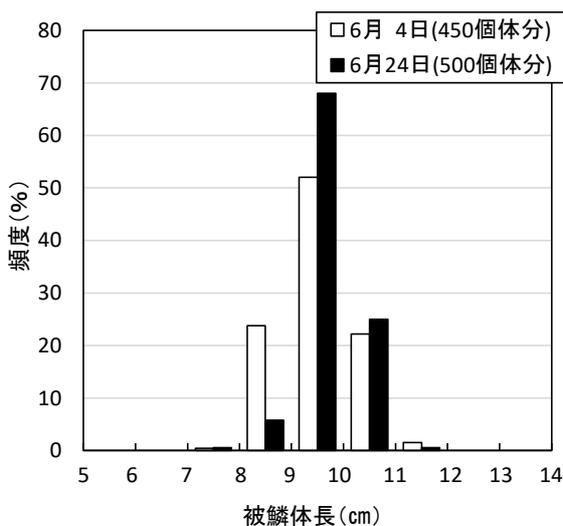


図8 カタクチイワシの体長と生殖腺熟度指数KG (6月4日の底びき網調査時との比較)

※2022年9月の調査定点は3定点。

表1 渥美外海のカタクチイワシ卵採集数(15点合計)

※2024年4月の調査定点は2定点。

(単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	欠測	0	2	208	14	147	178	11	4	0	0	0	564
2018	0	0	72	102	25	144	154	0	欠測	0	0	0	497
2019	0	0	62	39	57	29	97	58	54	0	0	0	396
2020	0	0	0	1	0	116	30	89	11	13	3	0	263
2021	0	0	24	46	25	186	88	25	17	0	0	0	411
2022	0	欠測	23	1	203	212	247	351	5	0	0	0	1,042
2023	0	0	0	1	3	82	130	12	89	欠測	5	0	322
2024	0	欠測	0	0	214	測定中							214
10年平均	0	0	104	153	68	107	118	68	48	25	1	1	686

表2 伊勢湾のカタクチイワシ卵採集数(15点合計)

(単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	-	-	-	0	17	29	215	494	2	1	1	-	759
2018	-	-	-	0	438	65	360	70	欠測	41	62	-	1,036
2019	-	-	-	0	70	2,518	2,593	627	52	37	118	-	6,015
2020	-	-	-	506	6,126	4,561	1,442	4,698	735	211	6	-	18,285
2021	-	-	-	2,985	1,227	2,258	1,765	2,607	746	212	25	-	11,825
2022	-	-	-	559	1,624	756	2,522	2,575	435	462	336	-	9,269
2023	-	-	-	0	132	3,256	2,004	5,798	1,216	欠測	29	-	12,435
2024	-	-	-	4,252	4,893	4,120							13,265
10年平均	-	-	-	406	1,166	1,506	1,241	1,985	385	184	174	-	6,991

表3 愛知県シラス類漁獲量

※6月30日現在

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	5	0	0	885	2,247	0	11	38	31	172	85	104	3,579
2018	0	0	97	957	1,917	9	66	379	553	797	295	660	5,730
2019	0	7	389	676	1,472	1,349	884	1,119	1,514	45	9	302	7,767
2020	0	10	219	428	658	1,629	590	1,933	131	493	148	492	6,731
2021	0	2	101	1,295	631	676	392	48	1,098	1,397	743	317	6,700
2022	0	1	3	253	1,150	831	9	407	82	158	4	335	3,232
2023	145	0	10	194	243	595	169	135	335	245	1,239	646	3,956
2024	4	1	22	272	380	206							884
10年平均	16	2	92	747	1,509	711	281	525	471	739	687	467	6,248

表4 愛知県カタクチイワシ漁獲量

※6月30日現在

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	15	21	62	23	194	3,039	2,659	1,725	1,038	340	583	346	10,045
2018	0.3	7	0	12	33	2,795	1,654	945	1,294	149	13	40	6,943
2019	172	38	32	2	0	1,339	4,128	1,692	1,432	2,564	803	515	12,717
2020	4	35	27	0	0	0	2,698	2,115	1,620	2,924	1,920	2,117	13,462
2021	302	48	0	0	0	0	691	1,062	719	766	1,674	1,593	6,853
2022	505	0	0	0	0	0	532	2,453	3,462	1,118	1,055	1,044	10,169
2023	81	0	0	0	0	13	1,501	3,691	574	1,310	895	883	8,949
2024	160	0	0	0	0	987							1,147
10年平均	184	37	14	82	135	1,628	2,994	2,208	1,882	1,293	1,068	875	12,400

表5 愛知県マイワシ漁獲量

※6月30日現在

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	0	0	0	0	181	1,380	6,258	5,153	4,497	5,445	3,311	1,888	28,114
2018	61	0	0	0	0	2,605	5,555	4,999	4,701	2,944	1,103	2	21,970
2019	210	40	4	0	0	1,311	2,634	3,886	1,417	152	256	7	9,917
2020	0	0	0	0	0	0	3,502	1,995	2,351	174	15	5	8,042
2021	0	0	0	0	0	0	6,128	4,125	3,476	703	35	5	14,471
2022	0	0	0	0	0	0	2	1,666	179	791	52	0.15	2,690
2023	0	0	0	0	0	0	0	10	4,195	86	18	0	4,308
2024	0	0	0	0	0	0							0
10年平均	42	12	0	0	23	596	2,661	3,074	2,877	1,759	800	333	12,177